

2020 年 2 月 20 日

会 社 名 株 式 会 社 J M C
代 表 者 名 代表取締役社長 渡 邊 大 知
兼 C E O
(コード番号：5704 東証マザーズ)
問 合 せ 先 経 営 企 画 室 岸 川 智 則
シニアマネージャー
(TEL. 045-477-5751)

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開 催 日 時	2020 年 2 月 20 日 17 : 15～18 : 15
開 催 方 法	対面による実開催
開 催 場 所	東京都中央区日本橋兜町 3 - 3 兜町平和ビル 2 F 日本証券アナリスト協会 第 2 セミナールーム
説明会資料名	2019 年 12 月期決算説明会

【添付書類】

1. 決算説明会において使用した資料

※この書面（添付資料を含む。）は、有価証券上場規程施行規則第 427 条に基づき、公衆縦覧に供されます。



2019年12月期 決算説明会

株式会社 J M C [証券コード : 5704]

2020.2.20

1. 2019年12月期 全社業績概要

2. 2019年12月期 事業別業績概要

3. 2020年12月期 の取り組み

成長に向けた投資と準備 ブランドの確立

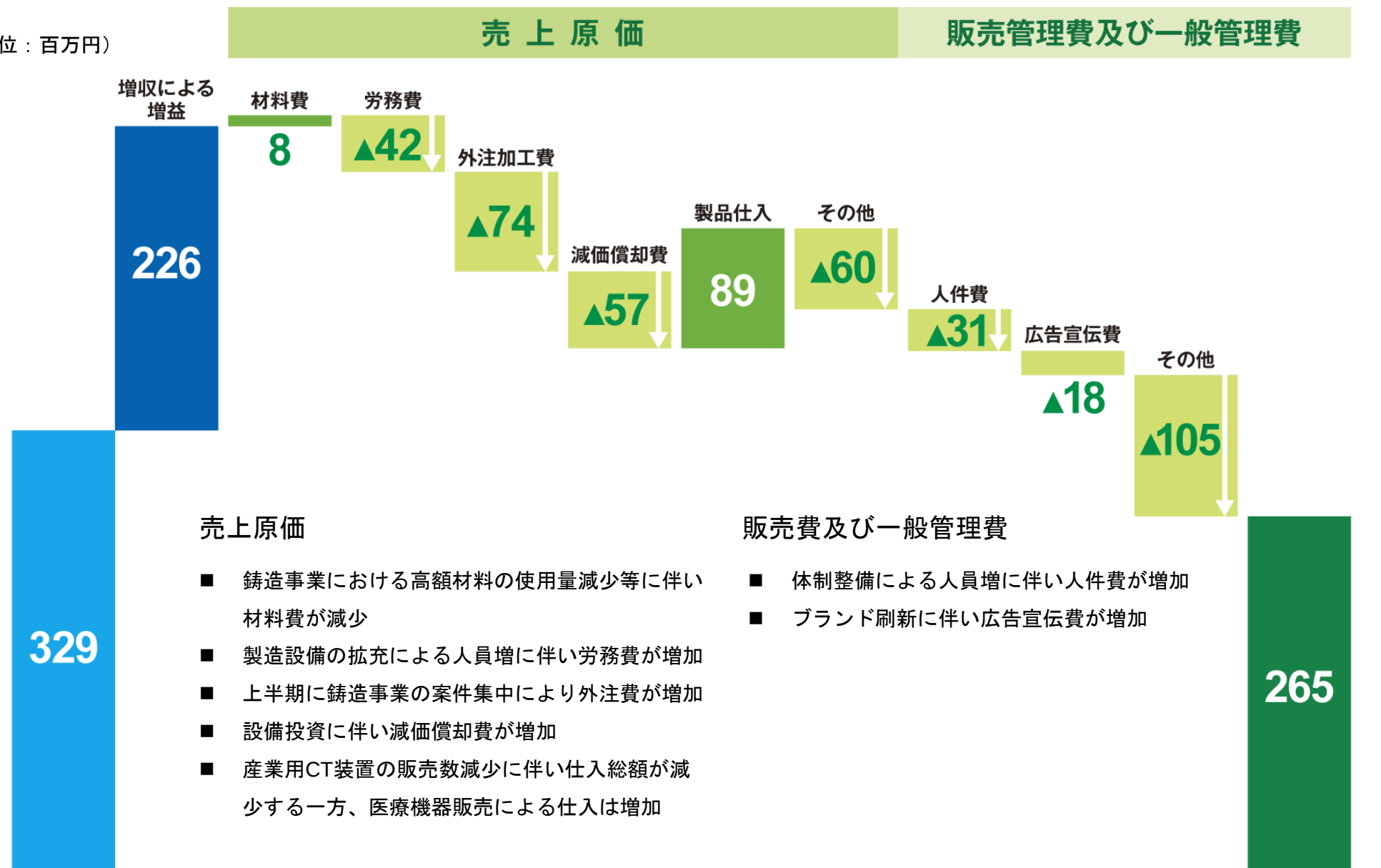
- パートナー企業としての認定
- 医療機器製造販売事業への投資
- 産業用CTによる検査・測定の市場をつくる

単位：百万円	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
売上高	2,582	2,809	226	8.8%
売上総利益	1,025	1,116	90	8.8%
売上総利益率	39.7%	39.7%	—	—
販売管理費	696	851	155	22.3%
営業利益	329	265	△64	△19.6%
営業利益率	12.8%	9.4%	—	△3.4P
経常利益	338	264	△74	△21.9%
経常利益率	13.1%	9.4%	—	△3.7P
当期純利益	214	164	△50	△23.4%

当事業年度後半以降、大手自動車メーカーの業績悪化による影響が顕在化し、自動車産業への依存度が高い鑄造事業の業績が急激に悪化し、全社業績の低迷を招きました。

営業利益 増減分析【対前年同期】

(単位：百万円)



売上原価

- 鋳造事業における高額材料の使用量減少等に伴い材料費が減少
- 製造設備の拡充による人員増に伴い労務費が増加
- 上半期に鋳造事業の案件集中により外注費が増加
- 設備投資に伴い減価償却費が増加
- 産業用CT装置の販売数減少に伴い仕入総額が減少する一方、医療機器販売による仕入は増加

販売費及び一般管理費

- 体制整備による人員増に伴い人件費が増加
- ブランド刷新に伴い広告宣伝費が増加

2018年12月期
営業利益

2019年12月期
営業利益

貸借対照表サマリー

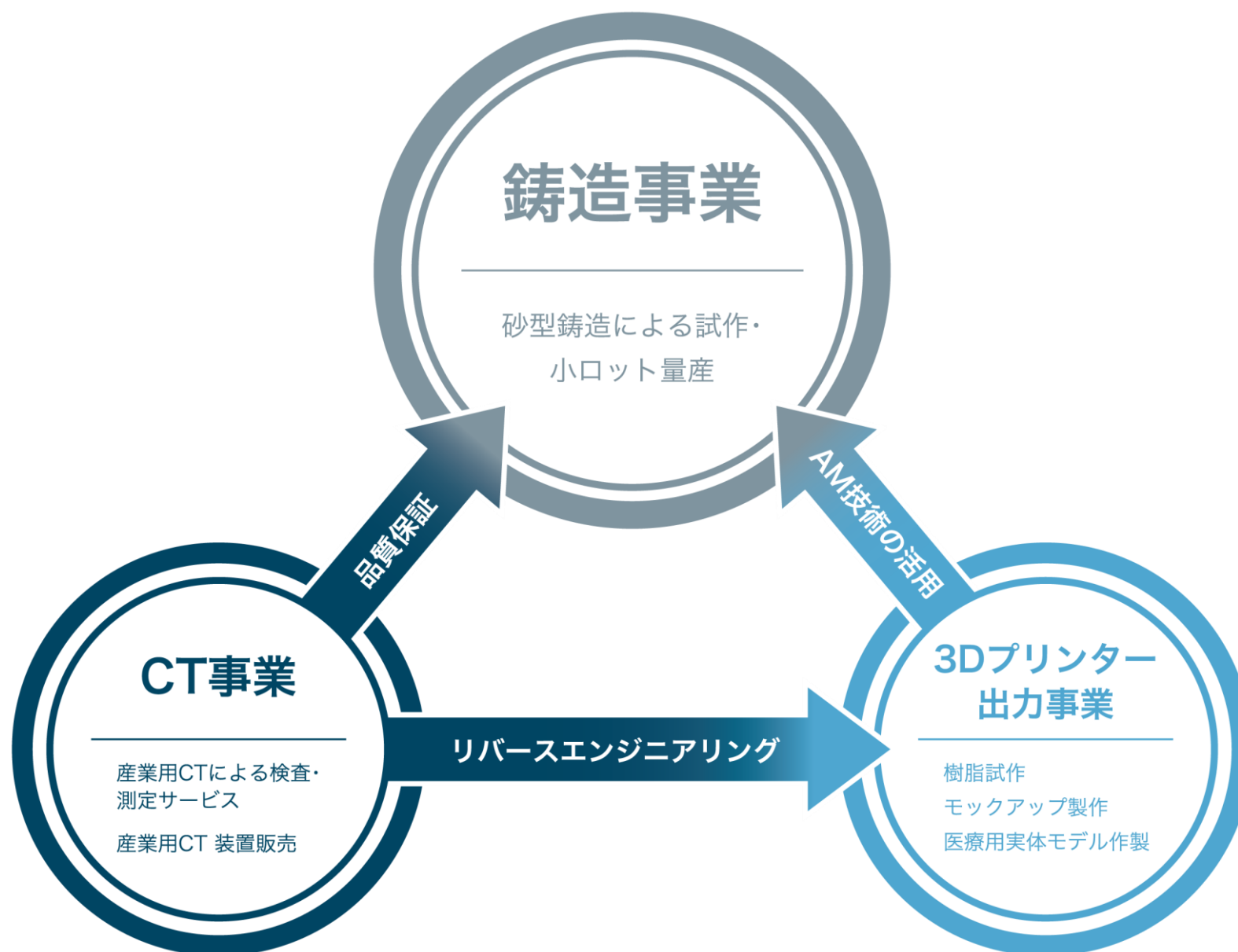
単位：百万円	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
流動資産	1,824	1,009	△814	△44.7%
固定資産	1,488	2,672	1,183	79.5%
資産合計	3,313	3,682	368	11.1%
流動負債	834	522	△311	△37.3%
固定負債	415	905	489	117.9%
負債合計	1,249	1,427	178	14.3%
純資産合計	2,063	2,254	190	9.2%

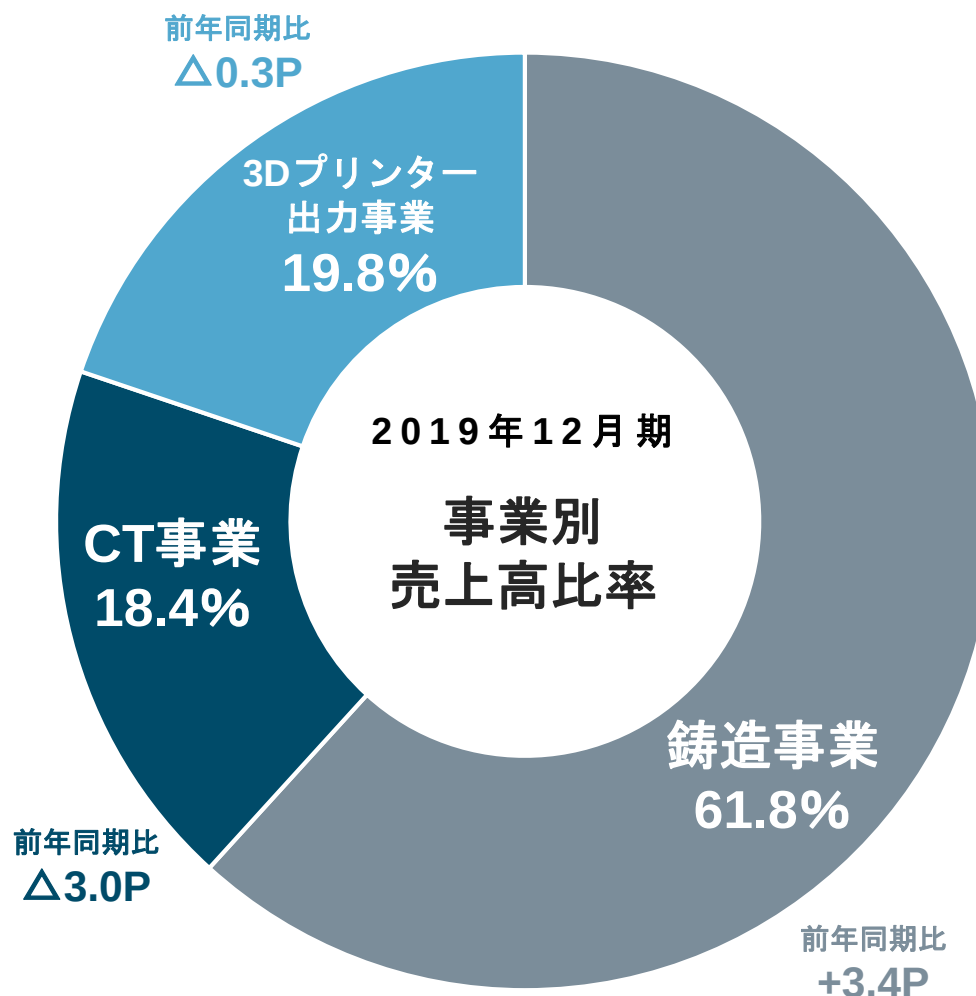
資産では、コンセプトセンター第6期棟建設及びミーリングセンターの土地及び建物取得などにより固定資産が増加しました。

負債においては、設備投資資金の一部を長期借入で調達したことにより固定負債が増加しました。

純資産は、当期純利益の計上により増加しました。

1. 2019年12月期 全社業績概要
- 2. 2019年12月期 事業別業績概要**
3. 2020年12月期 の取り組み





(注) 外部顧客への売上高の比率であります。

2019年12月期 セグメント別売上高・営業利益

単位：百万円	セグメント別売上高				セグメント別利益（営業利益）			
	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
3D プリンター 出力事業	520	556	36	7.0%	125	111	△13	△10.6%
鋳造事業	1,602	1,833	231	14.4%	501	475	△25	△5.2%
CT事業	556	517	△38	△6.9%	140	224	84	59.9%
その他 (内部取引)	△95	△98	△2	2.7%	△437	△546	△109	25.0%
財務諸表 計上額	2,582	2,809	226	8.8%	329	265	△64	△19.6%



外部環境

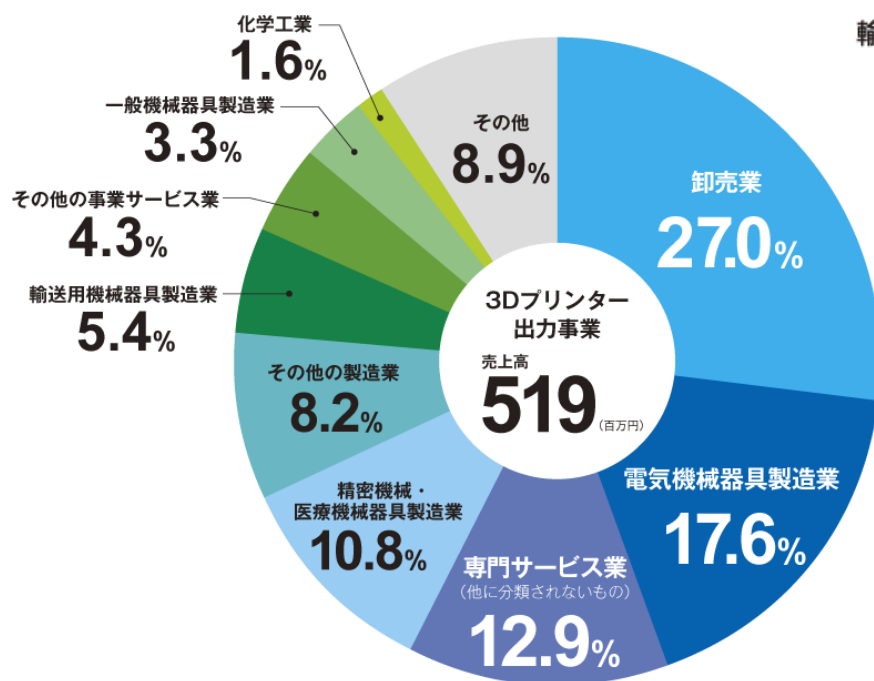
- 緩やかに市場は拡大するもプレイヤーは減少傾向

事業概況

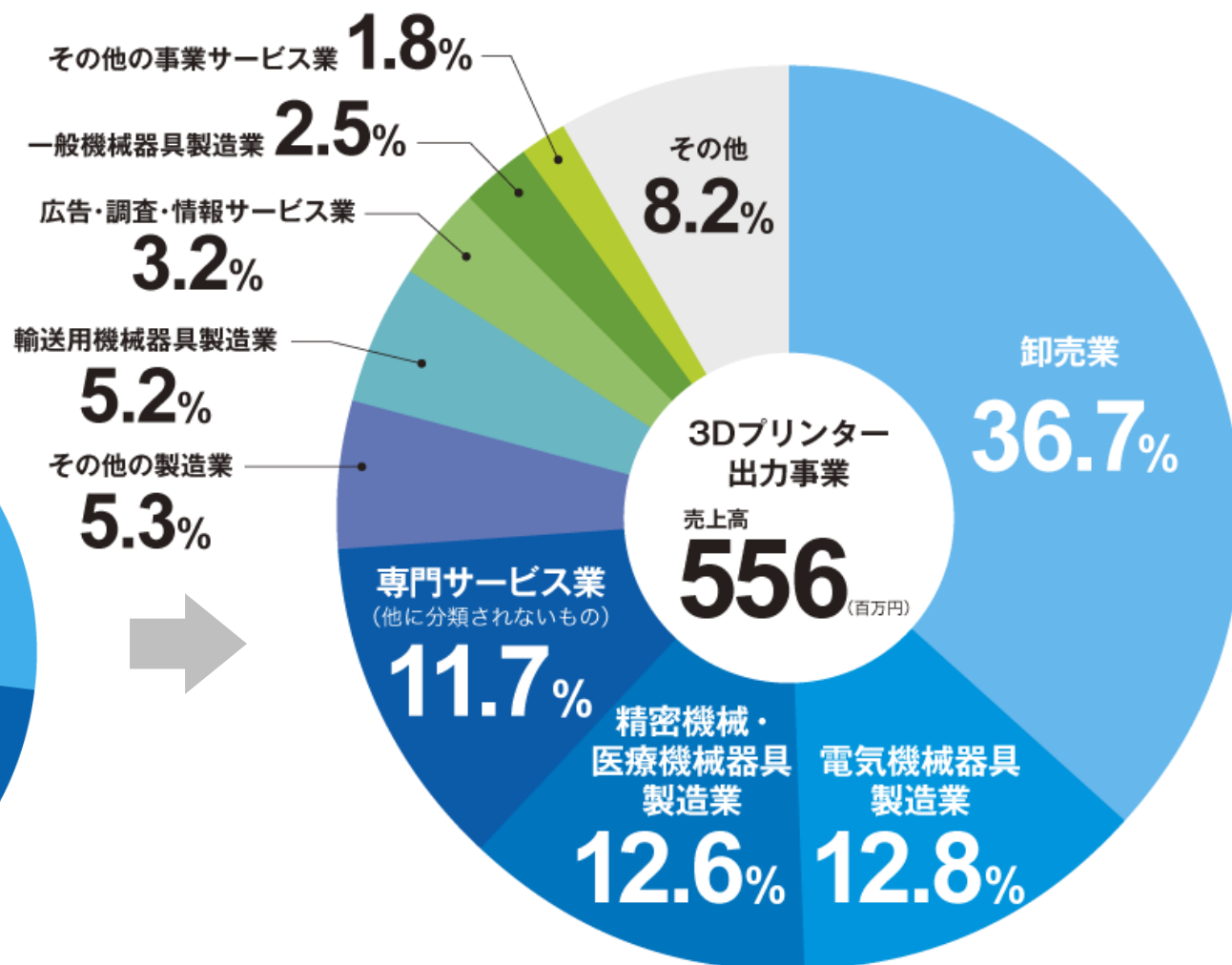
- 短納期・高品質の強みを生かした案件の受注
- 医療機器の販売の立ち上げが難航
- 『HEARTROID（ハートロイド）』の販促強化による
売上の拡大

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
3D プリンター 出力事業	520	556	36	7.0%	125	111	△13	△10.6%

自動車・医療分野が牽引、その他幅広い産業分野で受注拡大



2018年12月期



2019年12月期



外部環境

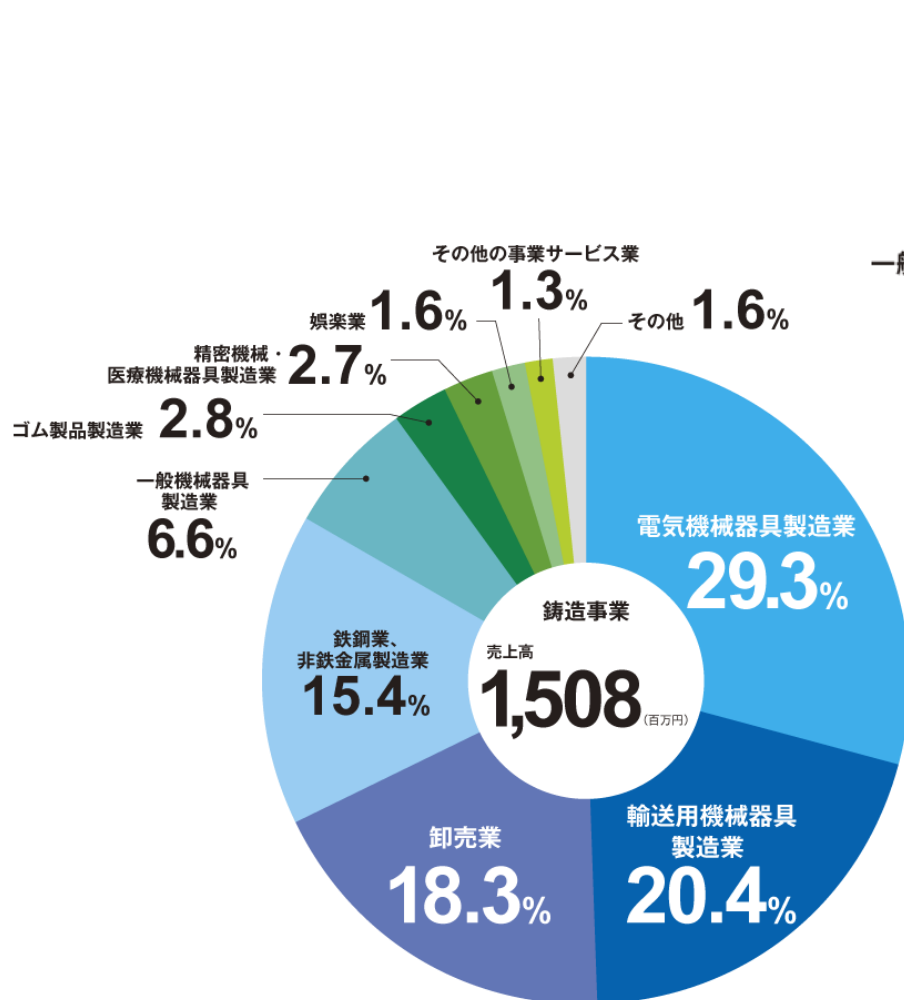
- 事業年度後半で試作・開発全体の案件数が減少
- 国内需要の短納期化、製品形状の複雑化などが益々加速

事業概況

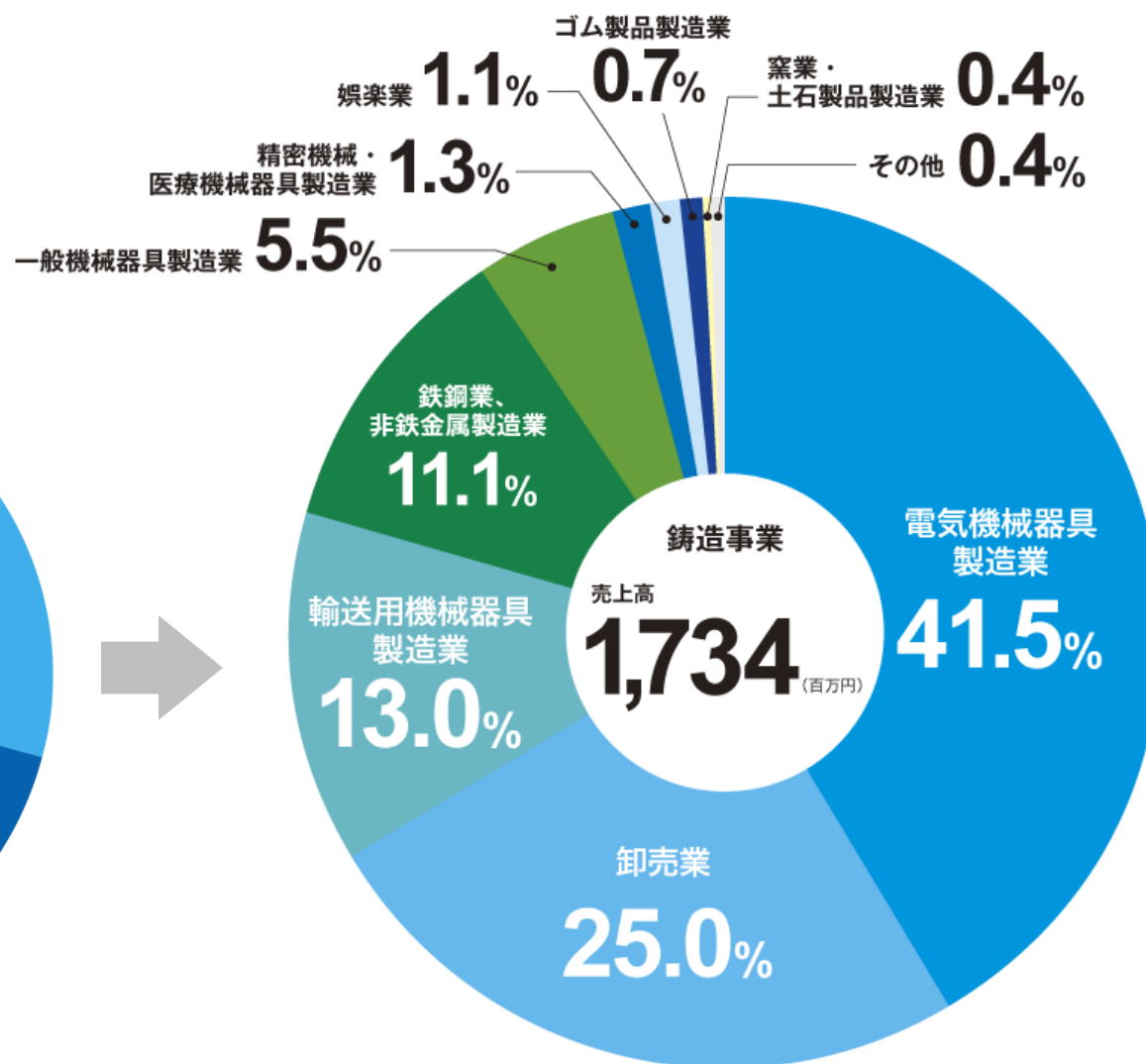
- 顧客ニーズに即応し、高付加価値製品を受注も案件数が減少
- 砂型3Dプリンター導入によるサービス拡充により、新規顧客を獲得
- 航空機部品市場への参入に向けた生産体制を整備

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
鑄造事業	1,602	1,833	231	14.4%	501	475	△25	△5.2%

事業年度前半に案件が集中するも市場環境の悪化により後半失速



2018年12月期



2019年12月期



外部環境

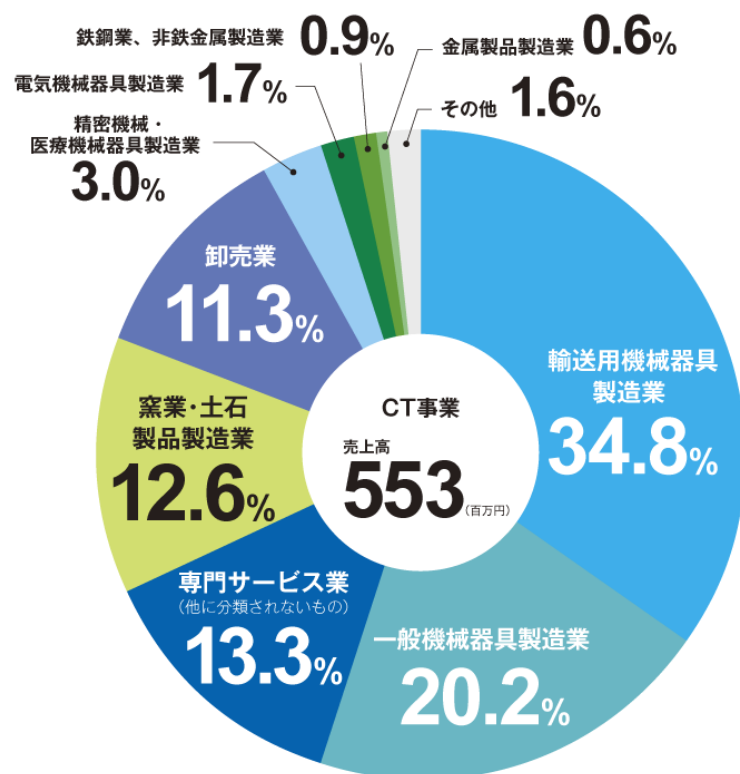
- 試作・開発市場悪化の影響は限定的
- さまざまな部品の軽量化による検査・測定ニーズが拡大

事業概況

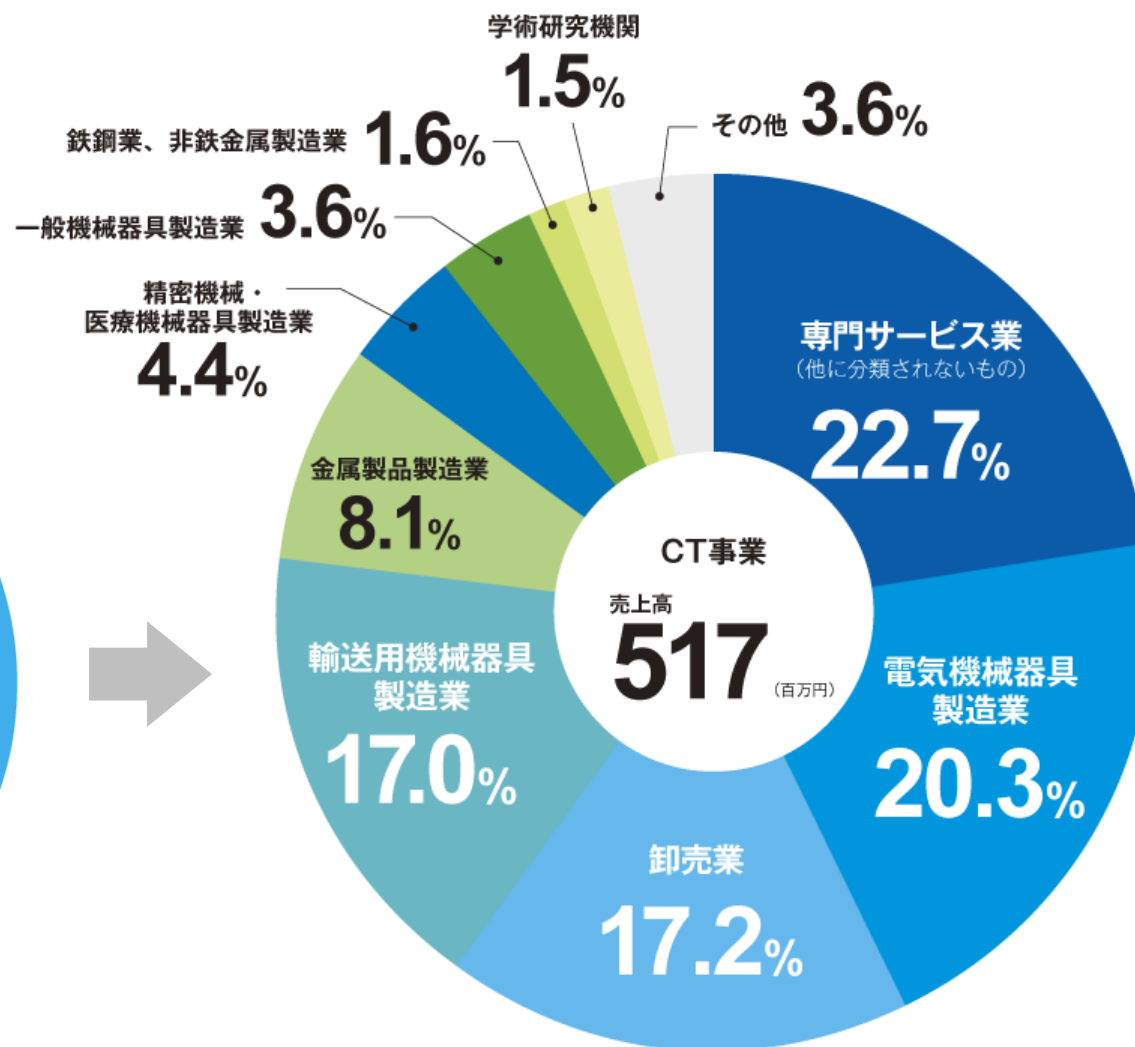
- 全領域の産業用CTによる高度なサービスによって受注が拡大
 - 研究機関からの受注が増加
 - CT装置ユーザーからの受注が増加
 - 既存顧客からの紹介による受注が増加

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率	2018年12月期	2019年12月期	増減額	増減率
CT事業	556	517	△38	△6.9%	140	224	84	59.9%

幅広い業種から非破壊検査、リバーエンジニアリングの案件を受注



2018年12月期



2019年12月期

1. 2019年12月期 全社業績概要
2. 2019年12月期 事業別業績概要
- 3. 2020年12月期 の取り組み**

中期経営計画の数値目標を凍結

変化に対応し、新たな強みをつくる

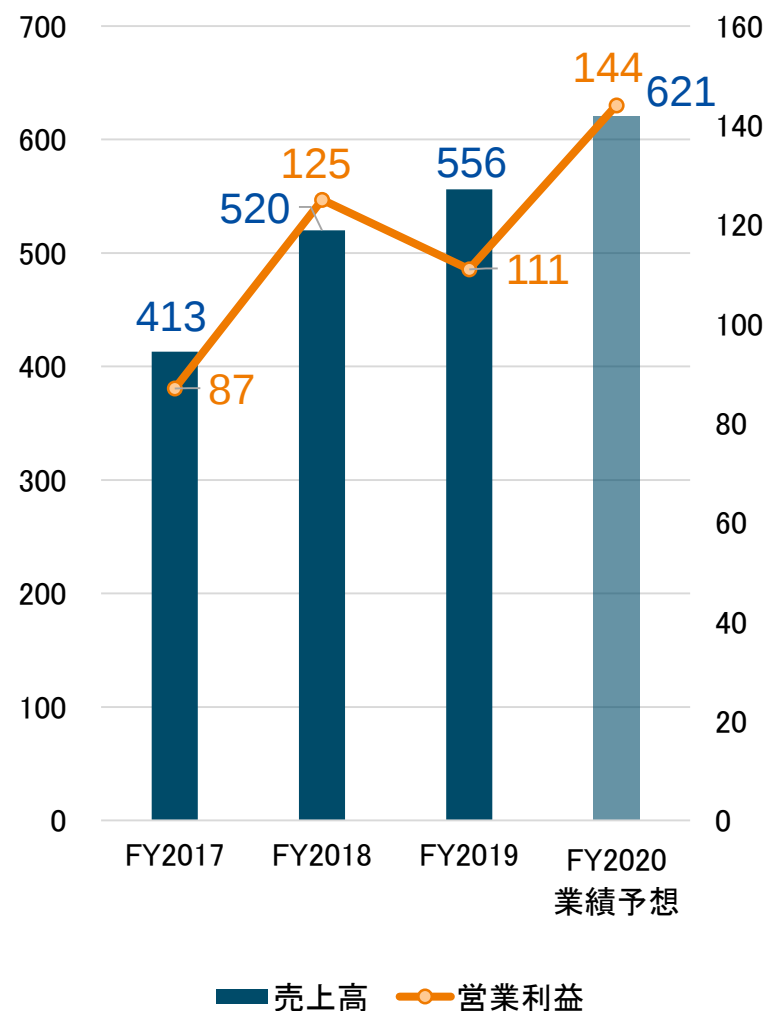
- 内製化の促進
- 教育・人材への投資
- 新サービス・製品の開発着手

単位：百万円	2019年12月期	2020年12月期	増減額	増減率
売上高	2,809	2,927	117	4.2%
営業利益	265	205	△60	△22.6%
営業利益率	9.4%	7.0%	—	△2.4P
経常利益	264	194	△70	△26.5%
経常利益率	9.4%	6.6%	—	△2.8P
当期純利益	164	128	△36	△22.1%

2020年12月期 セグメント別売上高・営業利益予想

単位：百万円	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	2019年 12月期	2020年 12月期	増減額	増減率	2019年 12月期	2020年 12月期	増減額	増減率
3D プリンター 出力事業	556	621	64	11.6%	111	144	32	28.9%
鋳造事業	1,833	1,552	△280	△15.3%	475	294	△180	△38.0%
CT事業	517	873	355	68.7%	224	357	132	59.2%
その他 (内部取引)	△98	△119	△21	21.5%	△546	△590	△43	8.0%
財務諸表 計上額	2,809	2,927	118	4.2%	265	205	△59	△22.4%

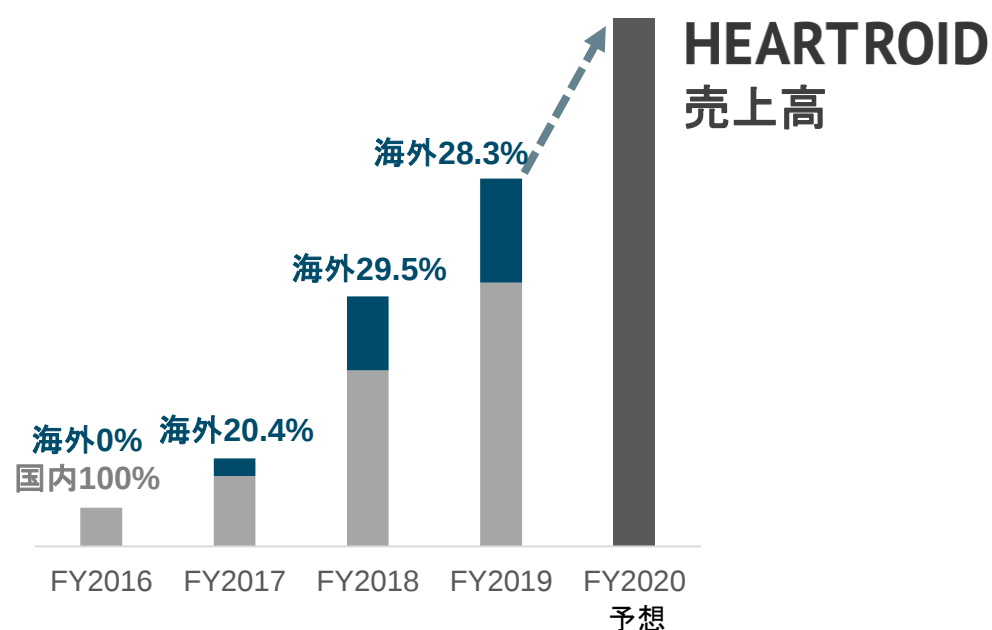
(単位：百万円)



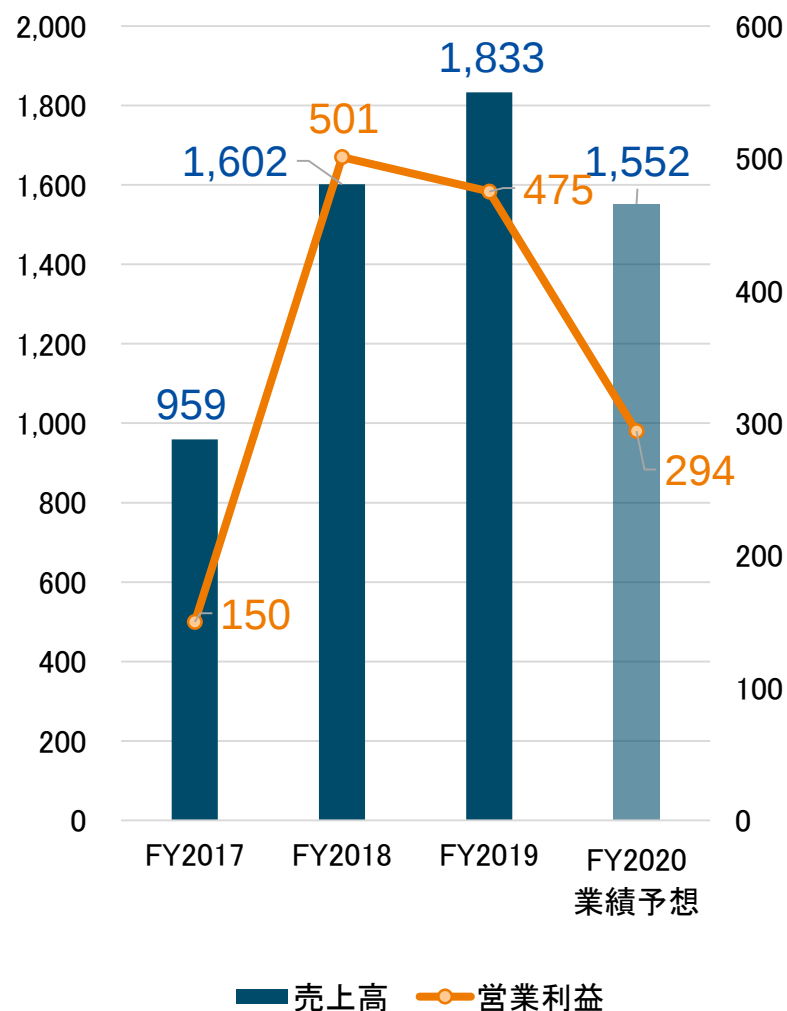
医療分野の販売強化と

サービス領域拡張による需要の取り込み

- 3Dデータ作成サービスの強化、3Dプリンター以外の試作工法や量産などの案件獲得
- 医療機器の仕入販売から自社開発へ
- 北米を中心とした『HEARTROID（ハートロイド）』の海外販売の強化



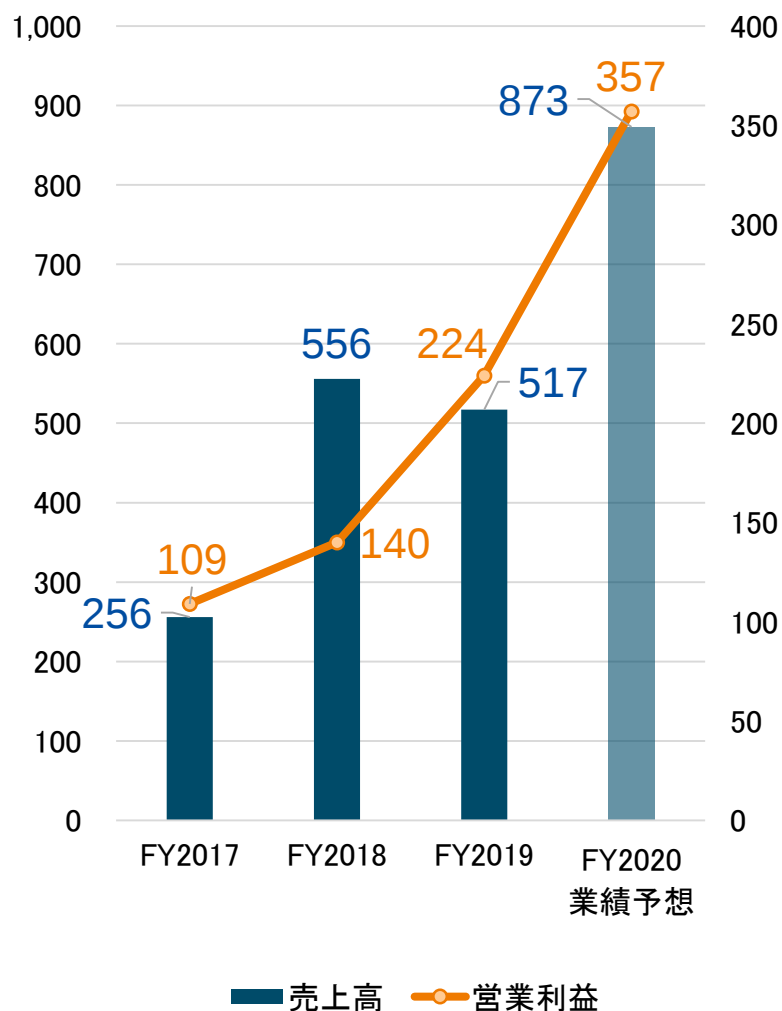
(単位：百万円)



航空分野に対応する生産体制の整備と 内製率の改善

- 砂型3Dプリンターによる生産性向上と納期短縮
- ミーリングセンター立ち上げにより機械加工工程の内製化を促進して外注加工費を削減
- 新たなCAD、測定器による内製化と品質管理能力向上
- 航空分野への参入から拡大

(単位：百万円)



サービスの認知向上と 体制強化により成長を加速

- マーケット・リーダーとして市場規模拡大を推進
- 新たな顧客層の獲得に向けた認知活動
- 展示会やWEBを中心とした集客力の強化
- 需要増加に対するサービス体制の強化



機能強化された 大型機を追加導入予定

GEセンシング &
インスペクション・テクノロジーズ株式会社
phoenix v|tome|x c450

〈参考〉キャッシュ・フロー計算書 サマリー

単位：百万円	2018年12月期	2019年12月期	増減額	前期比
税引前当期純利益	335	256	△ 78	△ 23.5%
減価償却費	200	262	61	30.8%
役員賞与引当金・賞与引当金の増減額（△は減少）	79	△ 53	△ 133	△ 166.6%
売上債権の増減額（△は増加）	△ 94	223	317	△ 335.0%
たな卸資産の増減額（△は増加）	△ 23	△ 28	△ 4	19.3%
仕入債務の増減額（△は減少）	△ 67	△ 19	47	△ 71.2%
その他	144	△ 339	△ 484	△ 334.5%
営業活動によるキャッシュ・フロー	575	301	△ 273	△ 47.5%
固定資産の取得による支出	△ 196	△ 1,397	△ 1,201	613.1%
その他	13	78	92	△ 669.6%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 209	△ 1,318	△ 1,109	528.4%
短期借入金の純増減額（△は減少）	155	△ 155	△ 311	△ 200.0%
長期借入れによる収入	—	500	500	—
長期借入金の返済による支出	△ 24	△ 47	△ 23	98.3%
リース債務の返済による支出	△ 51	△ 91	△ 40	78.9%
セール・アンド・リースバックによる収入	82	85	3	4.5%
その他	13	17	4	29.3%
財務活動によるキャッシュ・フロー	176	308	131	74.6%
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	541	△ 708	△ 1,250	△ 230.8%
現金及び現金同等物の期首残高	465	1,007	541	116.5%
現金及び現金同等物の期末残高	1,007	298	△ 708	△ 70.4%

本説明会および説明資料の内容は、発表日時点で入手可能な情報や判断に基づくものです。

将来発生する事象等により内容に変更が生じた場合も、当社が更新や変更の義務を負うものではありません。

また、本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、多分に不確定な要素を含んでいるため、実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なる場合がありますことをご了承ください。

◆本件に関するご連絡先◆

株式会社 J M C 経営企画室 I R 担当

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 5 号

電話番号 : 045-477-5751 E-mail : ir@jmc-rp.co.jp